

Chichester Times : Special Tokiwa Issue

No.07-7 2 Mar. 2007

プロジェクト計画書と行動計画書

前にも書きましたが、今年は全員に「現地での計画書」と「行動計画書」を課しています。狙いは、

1. 18名の自由時間の行動を把握する
2. 現地での時間を有効に使い、研修効果を高める
3. 学生が行動ひとつひとつに自覚的になる

と、一石で二鳥も三鳥も落とすつもりです。改めて気づくことは、自分の行動を自分で決めることに慣れていない、ということです。いきおい食事会に来てまで週末の予定を書いています。傍にいる誰かに同調する傾向が強いです。主体的学習だの自主性だのとよく口の端に上りますが、目的が十分に達成されていないなら、結局は教育が行き届いていない、あるいは、失敗しているということです。教育を提供する側として、反省しきりです。



お食事会

恒例の全員参加のお食事会を The Nag's Head というパブ・レストランで開催し、肉をたっぷりご馳走してあげました。ところが、肉料理の盛り合わせだけで済ませるつもりが、デザートを食べせろの、コーヒーも飲みたいのと、アルコールが入ると言いたい放題です。もちろん大盤振る舞いで、すべての願いを叶えてあげました。器量が大きいからと言いたいのですが、本音は、女性に食べ物絡みで恨まれると怖いですからね、安全策です。これで、楽しめて、私に感謝して、明日からまた学業に精を出してくれるなら安いものです（どうせ経費だし！）。

World Book Day

3月1日は「本の日」だったのですね。2000人が参加した「この本無しに生きられない10冊」の投票結果が *The Guardian* に出ています。全世代の合計でトップになったのは、ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』です。2位は『指輪物語』ですが、上位には現代の出版物よりも英文科の教室で扱えそうな古典ばかりが並びます。なにせ『聖書』が6位です。イギリスってこんなに信仰の篤い国だったかしら？記事によると、教室で学んだ本は結局人の一生に大きな影響を与えるものだ、と結論しています。これって日本にも当てはまるのでしょうか？大変、来年度のテキストを代えないと。後の人生に影響するなら恨まれてもいい、難しくてもいい、古典をしっかり提供しましょう。

批評精神

同じ新聞にアカデミー賞授賞式での著名人のファッション批評がでています。まったくのこき下ろしに近い文章ですが、写真と合わせて読むと合点がいきます。マドンナもフェイ・ダナウェイもグウィネス・パルトロウも散々な評価です。よく読むとNGでもOKでもその理由を明確に述べています。これは非難ではなく、批評なのです。健全なのですね。それでは、私も(?)。(吉川)